PLAN INTERNATIONAL

現実の選択、
現実の生活

世界の飢餓と女の子への影響

注：本レポートで使用されている画像は、いずれも調査の参加者のものではない。

はじめに

かつてない飢餓の危機に直面している今、全世界で推定1億9,300万人が緊急食料支援を必要としている[1]。

気候危機と新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響は、食料価格の上昇や、生計手段への機会不足貧困などの複合的な要因により深刻化している。ウクライナ紛争は、特に食料、エネルギー、肥料の価格上昇を引き起こし、こうした状況はさらに悪化させた。世界的飢餓の影響は地球規模で拡大し、2022年の食料確保状況は一段と悪化している[2]。

世界の飢餓人口の70%は女の子と女性であり[3]、食料が不足すれば多くの場合、女の子が最も深刻な影響を受ける。食料不安は女の子を、飢餓だけでなくジェンダーに基づく差別や暴力のリスクにさらしている。家計が逼迫すると、男の子よりも女の子の方が学校に通わせてもらえなくなることが多く、学校に通い続けられたとしても飢えは学習に深刻な影響を及ぼす。食料不安に陥り、中には家族を食べさせるために苦肉の策を講じる保護者もおり、女の子に早すぎる結婚（児童婚）を強制するリスクは高まっている。

世界的な飢餓危機対策の一環として、プラン・インターナショナルは特に飢餓のリスクが高い世界17か所の飢餓ホットスポット[4]で学校給食、現金給付および食料との引き換え可能なクーポンの支給による支援、食料配給などのプログラムを実施している。さらに、女の子や若い女性の体験が見過ごされがちな中、プラン・インターナショナルは、この危機が彼女たちに与えている影響についても調査を進めている。

この調査報告は、15年にわたり3地域9カ国[5]で女の子たちの生活を追跡してきた長期的な質的調査である*「現実の選択、現実の生活」*を、食料危機が女の子に及ぼす影響を理解することを目的にまとめたものである。この調査は、毎年、女の子とその保護者からデータを収集することにより、様々な状況下で子どもから思春期へと成長していく女の子たちの経験とその生活を決定づける現実について、独自の視点で洞察を行うことが可能となっている。

この調査報告は、2021[7]年と2022[8]年（女の子が14歳から16歳の時）に行われた2回のデータ収集[6]で得た情報をもとに、世界の飢餓危機がこの2年間に調査対象の女の子たちとその家族にどのような影響を与えたかを探ったものである。調査対象者から得たデータは、深刻な食料不安のリスクが最も高いとされる地域の枠を越えて、地球規模の食料危機が世界中の国々の女の子たちに影響を及ぼしていることを示している。

1. The global report on food crises 2022
2. Plan International 2022 'The Hungriest Places on Earth': https://plan-international.org/hungriest-places-on-earth/ で入手可能である。
3. https://wunrn.com/2016/03/women-hunger-70-of-the-worlds-hungry-are-women-un-special-rapporteur-on-the-right-to-food-report/
4. グアテマラ、シエラレオネ、マリ、ブルキナファソ、ニジェール、ザンビア、モザンビーク、ソマリア、南スーダン、レバノン、バングラデシュ。
5. ベナン、ブラジル、カンボジア、ドミニカ共和国、エルサルバドル、フィリピン、トーゴ、ウガンダ、ベトナム。
6. 2021年、118人の女の子とその主な保護者にインタビューを実施。2022年、78人の女の子がインタビューを受け、その保護者はこのデータ収集に参加しなかった。カンボジアとウガンダの調査対象者は、このデータ収集に参加しなかった。
7. データ収集は2021年3月から6月にかけて行われた。
8. データ収集は2022年2月から4月にかけて行われた。

主な調査結果

01

ベナン、ブラジル、カンボジア、ドミニカ共和国、エルサルバドル、フィリピン、トーゴ、ウガンダの調査対象者の女の子とその家族は、過去2年間に食料不安を経験したと報告している。これらの国々は、食料不安が最も深刻な国ではないが、どの国でも食料不安の問題が広まっており、その影響が各国内で様々な形で実感されていることを実証している。

02

過去2年間、9カ国における調査対象家族の食料不安の主な要因は、COVID-19関連措置とその家計への影響、COVID-19関連施策による食料・燃料費の上昇、気候変動の影響、ウクライナ紛争、気候変動が引き起こす異常気象による農作物の損失あるいは壊滅的被害である。

03

特にエルサルバドルとフィリピンでは、COVID-19のパンデミックに異常気象や各コミュニティでの食料・燃料費の上昇の影響が重なったことで、食料不安に陥った女の子とその家族もいる。

04

9カ国すべてにおいて、子どもを食べさせるために大人が食事を抜いたり、医療費を払うために家族全員が食べずに我慢したり、女の子の学費よりも食料の購入を優先するなど、女の子とその家族は食料不足に対処するために苦肉の策を講じている。

05

一部の調査対象国では、女の子とその家族から、食料不足がコミュニティにおける家庭内暴力、早すぎる結婚、児童労働、女の子の性的搾取の事例につながっているとの報告が上がっている。

現実の選択、現実の生活 - 研究対象国マップ

主な統計データ: アフリカ

ベナン

人口

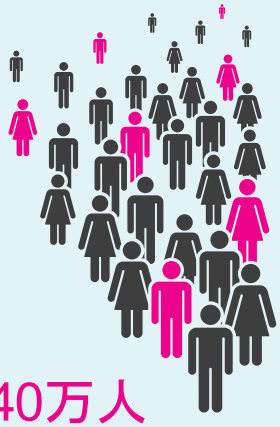
1,580万人

ベナンの人々が経験している飢餓のレベル は、2021年の世界飢餓指数で「深刻」に分類され、

116カ国中 82位だった[9]。

調査対象の女の子とその家族は、首都からそれほど遠くない農業が盛んな半都市部に暮らしており、そこでは作物販売も行われている。

トーゴ

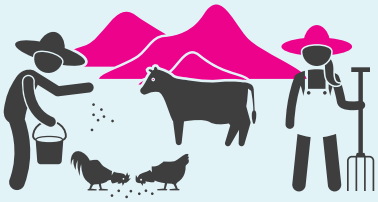


人口

1,040万人

トーゴの人々が経験している 飢餓のレベル は、2021年の世界飢餓指数で「深刻」に分類され、

116カ国中 89位だった[10]。



調査対象の女の子と家族は、住民の多くが自給自足農業で生計を立てる生活水準が低い中央地方に暮らしている。

ウガンダ

人口

5,940万人

2019年[11]、ウガンダの人口の

69.2%

が中程度／重度の食料不安を経験したと報告された。

調査対象の女の子とその家族は、食料と収入を農業に依存する農村部のコミュニティに 暮らしている。主な作物はサトウキビ

*カンパラから約150キロメートル

9. Global Hunger Index 'Benin'は、Benin - Global Hunger Index (GHI) - peer-reviewed annual publication designed to comprehensively measure and track hunger at the global, regional, and country levelsで入手可能である。
10. Global Hunger Index 'Togo' は、Togo - Global Hunger Index (GHI) - peer-reviewed annual publication designed to comprehensively measure and track hunger at the global, regional, and country levelsで入手可能である。
11. World Bank Dataは、Prevalence of moderate or severe food insecurity in the population (%) - Uganda | Data (worldbank.org)で入手可能である。

調査対象国の飢餓の要因は何か？

家に持ち帰るために容器に入れられた収穫物
©Plan International

食料・燃料費の上昇

すべての調査対象国において、女の子とその家族は、食料と燃料の価格上昇の影響を受けている。COVID-19の流行による食料生産の減少や気候変動による作物収穫量への影響ですでに食料価格が高騰していたところへ、ウクライナ紛争の勃発後は大麦、トウモロコシ、肥料の供給が世界的に減少し、さらなる価格上昇が続いている ウクライナ情勢の影響は特にフィリピン調査地で顕著であり、紛争が始まって以来、肥料価格の高騰で米作りが経済的に難しくなって生活のために漁業を始める世帯も多く、クリスティンの家もその一つだ。ロザミーの報告によると、家族は農作物の運搬に使っていたバイクをガソリン代のために使えなくなったという。

「ウクライナ紛争の影響でガソリンの値段が上がり、値上がりが続いている。みんな他に手がないから買っているけれど」

ロザミー[12]、16歳、フィリピン、2022年

ロザミーは家計に大きな影響を与える世界の政治・経済についてかなり詳しく、異常気象に物価上昇が重なって、自分たちの食料確保にまで影響が及んでいると説明した。

「収穫を控えていた時期の大雨で、蓄えていた米がなくなってしまったんです。肥料が高いのでお金がどんどんなくなって、悲しいです。もちろん、何とかしようと頑張ってはいますが、何をやっても、お金がなくて必要なものも買えないのはつらいです。とにかく食べ物があることが大事。それに尽きます」

ロザミー、16歳、フィリピン、2022年

カイラは、コミュニティが貧しくて苦労するのはどの家庭もみな同じだが、最も大きな影響を受けるのは女性であることをずっと見てきた、と話します。

「なぜなら、家族がいるからです。特に職を失った人々…母親は家計のやりくりの負担を背負い込むので大変です…彼ら（父親）だって影響を受けているのは同じで、生業がない場合はなおさらですが。でも、本当に問題を背負っているのは女性です。」

カイラ、16歳、フィリピン、2022年

12. 本レポートで使用している名前はすべて仮名です。

気候変動による影響

異常気象を含む気候の変化も、調査対象の女の子の家庭の食料不安の原因となっている。ベナン、トーゴ、ウガンダからは、高温少雨の気候や干ばつによる作物被害などの壊滅的状況が報告される一方で、フィリピンやカンボジアからは洪水で激減した米の収穫について女の子と保護者らが説明した。

2020年にエルサルバドルを襲った熱帯低気圧「アマンダ」では、異常な風と洪水で豆の収穫が壊滅的な被害を受け、すでにCOVID-19対策による経済的影響を受けていた調査対象の家族たちはさらなる困難に直面した。調査対象国の女の子とその家族は何年も前から気候の変化の影響が自分たちの食料確保にまで及んでいると報告してきたが、これにCOVID-19のパンデミックがもたらした経済的負担が重なって一層深刻化していることが多い。

COVID-19パンデミック

COVID-19のパンデミックの影響が、食料確保にまで及んでいる実態は広く報告されているが、調査対象の女の子と家族らは、それに加えて、現在行われている経済復興の影響も受け続けていると報告している。政府が課した移動制限と職場規制の影響で、大部分の家庭が収入の減少や失業に直面している実態が9か国すべてで明らかになっている。.

「COVID-19が流行する前は、お粥を売っていたのですが、外での飲食が規制されてみんなが家に引きこもってしまい、商売になりません。今は家族を食べさせるのも四苦八苦です。」

NINI-RIKE'S MOTHER, ニイリクの母、トーゴ、2021年

ベナンでは、母親など女性の保護者の多くが商売をしており、COVID-19の移動制限で行商ができなくなり、収入が激減した。フィリピンやトーゴでは、都市部や海外で働く家族からの仕送りに頼っていた世帯もあったが、COVID-19の規制でその家族も収入を失うと、女の子と家族にはセーフティネットがなくなってしまった。カンボジアの女の子たちは、パンデミックで母親が失業した後は食料が不足していると報告した。

ベトナムの14歳の女の子
©Plan International

「COVID-19が広がってから、生活は一変しました。友達との付き合いもなくなり、学校にも行けず家事も増えたし、食べ物もなく、母親は仕事を失いました。だから、できるだけ節約する必要があります。」

ソサニー、14歳、カンボジア、2021年

Covid-19のパンデミックの際、一部の調査対象家族は、国から食料の援助を受けたと報告した。

エルサルバドルのガブリエラー家は、当初は自分たちが受給対象者だとは思っていなかったが、支援に頼った。しかし、ウガンダのジャスティンの家族は、他の家には食料が支給されたけど、自分たちは何の支援も受けなかったと報告した。ジャスティンの母親の考えでは、「農村部に住んでいる者は自給自足ができると思われて、都市部の住民だけを対象に支援を行い、農村部の住民は除外されたのではないか」と言う。

「よくわからないけど、村に住んでいれば庭で野菜栽培ができるので、食べ物があると思われているのかもしれない・・・。
農村部に暮らす人も都市部の人と同じように食べるものがない時もあるだろうし、みんなCOVID-19のパンデミックの影響を受けているのに、どうして都市部の人だけを選んでいるのだろうと、不愉快でした。」

ジャスティンの母、ウガンダ、2021年

主な統計データ: アジア

カンボジア

人口
1,880万人

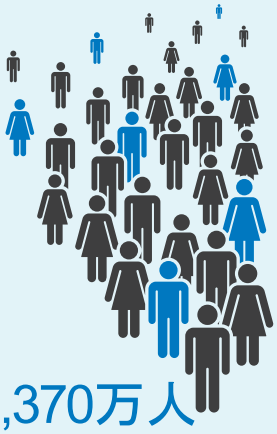
2019年、カンボジア人口の

44.8%

中・重度の食料不安を経験したと報告された[13]。

調査対象の女の子とその家族は農村部に住んでおり、主に農民や農業労働者として働いている。

フィリピン



人口
1億2,370万人

2019年、フィリピン人口の

42.7%

が中・重度の食料不安を経験したと報告された[14]。

調査対象の女の子とその家族は、台風や洪水、干ばつが非常に発生しやすく気候変動リスクの高い農村部に住んでいる。住民は農業と、沿岸部では漁業で生計を立てている。

ベトナム

人口
1億420万人

2019年、ベトナム人口の

6.5%

が中・重度の食料不安を経験したと報告された[15]。

調査対象の女の子と家族は、住民が農業や林業に従事する農村部に主に住んでおり、大都市へ国内移住する者もいる。

13.World Bank Dataは Prevalence of moderate or severe food insecurity in the population (%) - Cambodia | Data (worldbank.org)を参照。
14.World Bank DataはPrevalence of moderate or severe food insecurity in the population (%) - Philippines | Data (worldbank.org)を参照。
15.World Bank DataはPrevalence of moderate or severe food insecurity in the population (%) - Vietnam | Data (worldbank.org)を参照。

:家計を支えるために働かなければならないエルサルバドルの女の子
©Plan International

飢餓は女の子にどのような影響を与えているのだろうか

女の子の健康とウェルビーイング（幸福、健康）

食料不安に陥っている調査対象の家庭では、飢餓が女の子の健康やウェルビーイング（幸福、健康）そして将来にどのような影響を与えるのかが、保護者の大きな懸念材料になっている。ベナン、トーゴ、フィリピン、ウガンダの女の子たちは、食料の不足で心の健康が保てなくなったと報告している。
女の子たちは家族の窮状に気づいており、これから先食べ物が十分にあるのか不安だという者もいる。

「楽しくない、休めない、食事が足りない
ーイライラして、引きこもり、しかめっ面になり、心が満たされない」

アナベル、14歳、ベナン、2021年

ウガンダのシーラの家族はCOVID-19のパンデミック中、政府の移動制限、雇用機会の不足、ウイルス感染への恐れから、農業労働者の働き口がなかなか見つけられなかった。父親は娘のシーラは食べるものがなくてやせてしまった。また医療費のために家族全員が一日中食事を取らないこともあったと報告している。

ベトナムの調査対象の女の子と家族からは、食料不安に陥っているという報告はなかったが、多くが食料や燃料費の高騰で特定の食品を食べなくなったり、あるいは節約のために食生活を変えるようになったと語った。ブラジルでは、ナタリアの母親も、物価の高騰と限られた予算のために、家族の食費を 切り詰めて最低限必要なものに絞ったと報告している。

女の子の教育への影響

ウガンダの調査対象家族にとって、飢餓が女の子の教育に与える影響は大きな懸念材料になっている。娘に十分な食事を与えるのが難しい家庭は、学校での学習にどのような影響があるか不安を抱いている。

「空腹で学習しても子どもは集中できないだろうから、娘の学習にも影響がありました」

ニミシャの母、ウガンダ、2021年

アメリアは、十分に食べないまま学校に行かされた子どもたちが、空腹のあまりクラスメートの食べ物を盗むこともある、と説明する。彼女は、子どもがやむを得ずしたことだと認めずお仕置きをする親を非難する。

「それは、子どもの過ちの原因は自分たちにあるのに、子どもを責めることになるからです。例えば、何も持たせずに学校に行かせれば他の子の砂糖を盗んでしまい、両親に殴られることもありますが、子どもたちが必要最低限のものも持たずに家を出ていることは親も十分わかっているのです。」

アメリア、14歳、ウガンダ、2021年

ウガンダの調査対象の女の子たちが通う学校では昼食が提供されるが、「給食は学費を完納した生徒しかもらえない」という報告もある。家で食べ物を買うのも困難な家庭にとって、学費は二の次になることが多く、学費を払えない家庭の女の子たちは日中お腹を空かせ、それが原因で学校に行かなくなることもある。ミレンバは、父親から学費をもらえず、学校で食べるものが足りないときに、友だちから食べ物を分けてもらっているという。

「学費を払ってほしいと父に頼んでも、お金がないと言われると悲しい気持ちになる」

ミレンバ、ウガンダ、2021年

暴力や搾取を受けるリスク

フィリピンのマハリアの暮らすコミュニティは、アフリカ豚熱[16]の流行に加えてCOVID-19による移動制限で、彼女の両親のような行商をする農民は大きな経済的打撃を受けた。マハリアの家族の報告では、こうしたストレスから彼らのコミュニティでは家庭内暴力が増加したという。メラニーの母親も、自分のコミュニティでは、COVID-19のパンデミックで深刻化した食料不安と、早すぎる結婚など子どもに対する親の暴力には関連があると指摘した。

「親たちは暴力を振るうようになりました。それがCOVIDの影響です…そうですね、こちらでは子だくさんで食べるものがない…というような状況もありますし、家計や食料の問題を抱えている人もいます。子どもを学校に通わせるより、まだ幼くても結婚させてしまおうとする人もいます。」

メラニーの母、フィリピン、2021年

特に女の子たちが、食料不安に陥っている家族による搾取のリスクにさらされている背景には、家族の食料を確保するために男性と関係を結ぶ、または関係を続けるよう女の子たちを仕向けている実状があると、ウガンダのレベッカの母親は説明する。

「そういう親たちは、娘の力を借りてとにかく早くお金を手に入れたいと考えている、その上たっぷり食べたいという欲求があるだけに、娘と向き合って話すこともせずに、男たちから砂糖や肉、米をもらうために娘を送りこむのです。」

レベッカの母、ウガンダ、2021年

16. アフリカ豚熱（ASF）は、豚やイノシシが罹患するウイルス性疾患で致死率は最大100%である。フィリピンでは2019年7月に最初の感染が報告され、2021年7月現在、ASFは81州のうち50州に広がっている。FAO ‘ASF situation update’ はFAO ASF situation update - African Swine Fever (ASF) - FAO Emergency Prevention System for Animal Health (EMPRES-AH)を参照。

主な統計データ: ラテンアメリカ

ブラジル

人口

2億1,556万人

2019年、ブラジル人口の

23.5%

が中・重度の食料不安を経験したと報告された[17]。

調査対象の一部の女の子と家族は農業で生計を立て、その他は臨時雇いや政府の援助に依存している。

ドミニカ共和国

人口

1,085万人

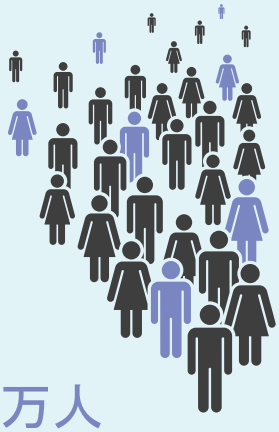
ドミニカ共和国の人々が経験している飢餓のレベルは、2021年の世界飢餓指数で「低」に分類され、

36位

116カ国 中 だった[18]。

調査対象の女の子と家族は農村部に住み、バナナ、トマト、コーヒーの栽培が主な収入源である。

エルサルバドル



人口

647万人

2019年、エルサル人口の

47.1%

が中・重度の食料不安を経験したと報告された[19]。

調査対象の女の子と家族の中には、遠隔地にある山間部に住んでいる者もいれば、海岸沿いの半農村地域に住んでいる者もいる。

雇用の中心は農業だが、干ばつや洪水で作物が失われ、肉体労働などさまざまな仕事で生計を立てている。

17. World Bank Data.はPrevalence of moderate or severe food insecurity in the population (%) - Brazil | Data (worldbank.org)を参照。
18. Global Hunger Index ‘Dominican Republic’.は Dominican Republic - Global Hunger Index (GHI) - peer-reviewed annual publication designed to comprehensively measure and track hunger at the global, regional, and country levelsを参照。
19. World Bank Data.はPrevalence of moderate or severe food insecurity in the population (%) - El Salvador | Data (worldbank.org)を参照。

提言

政府、資金提供者、その他人道支援団体に対するプラン・インターナショナルの提言

約4,900万人を飢餓の危機から救い、1億3,700万人のレジリエンス（回復力）を高めるために**必要な215億ドルに対して速やかに資金提供を行う**。資金は直ちに提供され、容易に利用できるものとし、使途を特定されない柔軟性を持ったものでなくてはならない。さもなければ、飢餓が蔓延し、農業の生計戦略や資産が完全に崩壊する恐れがある。このような理由から、プラン・インターナショナルは、世界の食料安全保障に対する50億ドルの拠出を認める米国議会の最近の決定を称えるとともに、他のG7メンバーにも大規模な資金提供を呼びかける。

政府が、子どもや女性が世帯主である家庭、幼い子どものいる家庭、避難民など、最も影響を受けやすく脆弱な人々のために、**ジェンダーの視点に立った無条件の社会的保護と所得支援措置を拡充**し、必要に応じて、人道支援団体が国の対応を補完できるような環境を整えることを支援する。さらに、こうした措置は、栄養、保健、衛生、子どもの健やかな成長・発達のためのケア、家族およびコミュニティに対するジェンダー平等の情報と啓発と合わせて実施するよう支援する。

命を救うための人道的活動に加え、代替生計手段や状況に応じた柔軟な社会的保護制度など、**レジリエンス（回復力）への投資拡大**が不可欠である。また、深刻な食料不安に対する救命支援は、食料不安の要因に対する活動と合わせて一貫した取り組みとして行い、すべての長期開発資金提供には迅速な危機改善策が必ず組み込まれるよう、時宜を逸することなく行わなければならない。

学齢期や思春期の子どもたちの声をはじめ、食料安全保障に何が求められているのか**ジェンダー・年齢別のデータ取得**は、年齢やジェンダーに特有の、特に思春期の女の子のニーズを満たす上で不可欠である。安全で包摂的（インクルーシブな）プログラムを設計するためには、子どもや思春期の若者の声に耳を傾け、彼女ら・彼らがどう対処し、何を好んでいるのか理解することが最も重要である。

ジェンダーに対応した子どもの保護、ジェンダーに基づく暴力（GBV）、心の健康とそれに対する支援、**母子保健**、食料および栄養プログラムに組み込まれた**性と生殖に関する健康と権利（SRHR）、教育対策**への資金提供の優先順位を高め、深刻な食料不安の状況下でも、子ども、特に女の子の緊急保護、保健、長期的ウェルビーイング（幸福、健康）が決して損なわれないようにする。

きわめて重要度の高い学校給食プログラムへの資金を増やす。必要な場合は、学校給食の受け取り（持ち帰り）サービスや、場合によっては現金給付など、学校閉鎖の際の代替食料配給手段を決める必要がある。これらは、年少の子どもたちや思春期の女の子（危機以前に学校に通っていなかった子どもを含む）にも支援が確実に届くよう適した形にする必要がある。

迅速な行動が命を救う。早期警戒指標に基づく予見的行動と準備に対する資金提供が重要であり、適切な場合には予測を基に資金調達を行うべきである。予見される気候変動による食料生産への影響を防止・軽減するための農業資源の分配、脆弱な人々が被害に備え自らを守るための緊急現金給付、特に干ばつに備えた家畜保護活動、監視と早期警戒の強化・継続、害虫と病気の抑制が求められる。特に避難民の増加が予測される場合の食料の備蓄などの取り組みを支援するために、資金を適切かつタイムリーで柔軟に利用できるようにしなければならない。

食料不安対策プログラムの実施中は、子どもの安全、尊厳、ウェルビーイング（幸福、健康）を優先して危害が及ばないようにし、子どもにやさしい仕組みをはじめ、説明責任がしっかりと果たされるシステムを構築する。そうしたシステムの下で、子どもと若者は、ジェンダーと年齢に対応した安全で信頼できる包摂的（インクルーシブ）な方法で情報を入手し、フィードバックを行い、人道的プログラムに有意義な参加をすることができる。

謝辞

ベナン、ブラジル、カンボジア、ドミニカ共和国、エルサルバドル、フィリピン、トーゴ、ウガンダ、ベトナムの女の子とその家族には、長年にわたる調査活動に協力していただき、心から感謝いたします。彼女ら・彼らの協力なしにこの研究は実現しなかったでしょう。

すべてのデータ収集の監督にはベナン、ブラジル、カンボジア、ドミニカ共和国、エルサルバドル、フィリピン、トーゴ、ウガンダ、ベトナムのプラン・インターナショナル活動国統括事務所が当たりました。長年にわたり、多くの人々がデータ収集に携わってきましたが、ごく最近では、調査の中心として活動してくれたベナンのRoland Djagaly、ブラジルのFabian SerenoとRaila Alves、カンボジアのChankrisna Sawada、ドミニカ共和国のOlga Figuereo、エルサルバドルのYesenia Segovia、フィリピンのManny Madamba、トーゴのAbdoul Baki Labodja、ウガンダのChristopher Kugonza と David Aziku、ベトナムのTrung Truong Vuに特別な感謝を捧げます。

この調査報告はリサーチ・ブリーフは、Jenny Rivettが執筆しました。

表紙の写真: トーゴの市場でホウレンソウを売る女の子

デザイン & レイアウト: Out of the Blue Creative Communication Solutions – www.outoftheblue.co.za

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、世界中の子どもたちの権利と女の子の平等の推進を目指しています。私たちプランは、すべての子どもに能力と可能性があると考えています。しかしながら、貧困や暴力、疎外、差別によりその力を発揮できないことも少なくありません。そして、その影響を最も受けるのが女の子たちです。独立した開発・人道支援組織として、私たちは子ども、若者、支援者、関連団体とともに、女の子と弱い立場にあるすべての子どもたちが直面している現実の根底にある問題の解決に取り組んでいます。子どもたちが生まれてから成人するまで、その権利を守り、子どもたちが危機と困難に備え、対応できる力を身につけられるよう支援しています。その知見と影響力を活かして、私たちは地域・国家・地球レベルで人々の行いと政策に変革を促します。設立から80年以上、私たちは子どもたちとの強い絆の下、世界75ヵ国以上で活動を続けています。

Plan International
International Headquarters
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155
Fax: +44 (0) 1483 756505
E-mail: info@plan-international.org

plan-international.org

Published in 2022. Text © Plan International

facebook.com/planinternational
twitter.com/planglobal
instagram.com/planinternational
linkedin.com/company/plan-international
youtube.com/user/planinternationaltv